

# 企画競争説明書

業務名称：徳島県美馬市及びつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に準拠した観光開発の現状・課題調査【企画競争】

- 第1 競争の手順
- 第2 業務仕様書（案）
- 第3 プロポーザル作成実施要領
- 第4 見積書作成及び支払について
- 第5 契約書（案）
- 別添 様式集

2021年11月15日  
独立行政法人国際協力機構  
四国センター

## 第1 競争の手順

本件に係る公示に基づく企画競争については、この企画競争説明書によるものとします。

### 1. 公示

公示日 2021年11月15日  
調達管理番号 21c00896000000

### 2. 契約担当役

四国センター 契約担当役 所長

### 3. 競争に付する事項

- (1) 業務名称：徳島県美馬市及びつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に準拠した観光開発の現状・課題調査
- (2) 業務内容：「第2 業務仕様書」のとおり
- (3) 業務履行期間（予定）：2021年12月下旬から2022年3月末

### 4. 選定手続き窓口と書類の提出方法

- (1) 選定手続き窓口  
〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階  
独立行政法人国際協力機構 四国センター 業務課  
【メールアドレス】[Funakoshi.Yohei@jica.go.jp](mailto:Funakoshi.Yohei@jica.go.jp)  
【電話】087-821-8826 【FAX】087-822-8870
- (2) 書類の提出方法（原則としてメールとします）  
・メール送付先：(1)のメールアドレス宛

### 5. 競争参加資格

この企画競争に参加を希望する者は、競争参加資格を有することを証明するため、当機構の確認を受けなければなりません。なお、共同企業体を形成して競争に参加しようとする場合は、共同企業体の代表者及び構成員全員が、競争参加資格を有する必要があります。

具体的には、競争参加の資格要件を以下のとおり設定します。

- (1) 公示日において平成31・32・33年度又は令和元・2・3年度全省庁統一資格を有すること（以下「全省庁統一資格保有者」という。）。または、当機構が2021年3月までに付与した「整理番号」を所有していること。  
ただし、上記における全省庁統一資格保有者でない者、または当機構付与の「整理番号」を所有していない者で本競争への参加を希望する者は、当機構から資格審査（以下、「簡易審査」といいます。）を受けることができます。（下記6.(1)を参照ください。）
- (2) 会社更生法（平成14年法律第154号）又は民事再生法（平成11年法律第225号）の適用の申し立てを行い、更生計画又は再生計画が発効していない者は、競争に参加する資格がありません。

- (3) 当機構から「独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程」(平成20年10月1日規程(調)第42号)に基づく契約競争参加資格停止措置を受けていないこと。具体的には、以下のとおり取り扱います。
- ア. プロポーザルの提出締切日が資格停止期間中の場合、プロポーザルを無効とします。
  - イ. 資格停止期間中に公示され、プロポーザルの提出締切日が資格停止期間終了後の案件については、プロポーザルを受付けます。
  - ウ. 資格停止期間前に、契約交渉相手方として通知されている場合は、当該相手方との契約手続きを進めます。
  - エ. 契約交渉相手方として通知される前に資格停止期間が始まる案件のプロポーザルは無効とします。
- (4) 日本国で施行されている法令に基づき登記されている法人であること。
- (5) 競争から反社会的勢力を排除するため、競争に参加しようとする者(以下、「応募者」という。)は、以下のいずれにも該当しないこと、および、当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約して頂きます。具体的には、競争参加資格確認申請書の提出をもって、誓約したものとします。
- なお、当該誓約事項による誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、競争参加資格を無効とします。
- ア. 応募者の役員等(応募者が個人である場合にはその者を、応募者が法人である場合にはその役員をいう。以下同じ。)が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力団等(これらに準ずるもの又はその構成員を含む。平成16年10月25日付警察庁次長通達「組織犯罪対策要綱」に準じる。以下、「反社会的勢力」という。)である。
  - イ. 役員等が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第6号に規定する暴力団員でなくなった日から5年を経過しないものである。
  - ウ. 反社会的勢力が応募者の経営に実質的に関与している。
  - エ. 応募者又は応募者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
  - オ. 応募者又は応募者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
  - カ. 応募者又は応募者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
  - キ. 応募者又は応募者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
  - ク. その他、応募者が東京都暴力団排除条例(平成23年東京都条例第54号)又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。

## 6. 競争参加資格の確認

本競争への参加希望者は、上記5. に掲げる競争参加資格を有することを証明するため、次に従い、当機構から競争参加資格の有無について確認を受けなければなりません。なお、期限までに必要な書類を提出しない者及び競争参加資格がないと認められた者は、本競争に参加することができません。

- ア. 提出期限：2021年11月22日（月）17時まで
- イ. 提出方法：提出書類をメール添付のPDFで提出  
宛先電子メールアドレス：[Funakoshi.Yohei@jica.go.jp](mailto:Funakoshi.Yohei@jica.go.jp)  
メールタイトル：【競争参加資格確認申請書等の提出（社名●●）】  
(21c00896000000) 徳島県美馬市及びつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に準拠した観光開発の現状・課題調査
- ウ. 提出書類：
  - a) 競争参加資格確認申請書（様式集参照）
  - b) 全省庁統一資格審査結果通知書（写）  
令和01・02・03年度全省庁統一資格審査結果通知書（写）
  - c) 共同企業体を結成するときは、以上に加えて以下の提出が必要です。
    - ・共同企業体結成届
    - ・共同企業体を構成する社（構成員）の資格確認書類(上記a)、b))<sup>1</sup>
- エ. 確認結果の通知：

競争参加資格の確認の結果はメールで通知します。2021年11月30日（火）までに結果が通知されない場合は、以下まで照会ください。  
宛先電子メールアドレス：[Funakoshi.Yohei@jica.go.jp](mailto:Funakoshi.Yohei@jica.go.jp)  
メールタイトル：【競争参加資格の確認（社名●●）】 徳島県美馬市及びつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に準拠した観光開発の現状・課題調査(21c00896000000)

## 7. 企画競争説明書に対する質問

(1) 業務仕様書の内容等、この企画競争説明書に対する質問がある場合は、次に従いメールで提出してください。

- ア. 提出期限：2021年11月22日（月）正午まで
- イ. 提出方法：宛先電子メールアドレス：[Funakoshi.Yohei@jica.go.jp](mailto:Funakoshi.Yohei@jica.go.jp)
- ウ. メールタイトルは以下のとおりとしてください。  
【企画競争説明書への質問（社名●●）】 徳島県美馬市及びつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に準拠した観光開発の現状・課題調査(21c00896000000)  
当機構より電子メールを受信した旨の返信メールをお送りします。
- エ. 質問様式：別添様式集参照

<sup>1</sup> 新型コロナウイルスの感染防止による在宅勤務などで共同企業体結成届に押印が出来ない場合、各社から代表者名による共同企業体参加表明書（様式は任意、押印はなくても可としますが組織的承認を得ている旨の記載を本文に入れてください）を各社から取り付けることで押印に代えることも可とします。

- (2) 公正性・公平性等確保の観点から、電話等口頭でのご質問は原則としてお断りしていただきますのでご了承ください。
- (3) 上記(1)の質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。
- ア. 2021年11月26日(金)午後4時以降、以下のサイト上に掲示します。
- 国際協力機構ホームページ
- 「調達情報」
  - 「公告・公示情報」JICA本部における公告・公示情報
  - 「国内向け物品・役務等 公告(2021年度)」の「質問回答」欄  
<https://www.jica.go.jp/chotatsu/buppin/koji2021.html>
- イ. 回答書によって、仕様・数量等が変更されることがありますので、本件競争参加希望者は質問提出の有無にかかわらず回答を必ずご確認ください。見積書金額は回答による変更を反映したものととして取り扱います。

## 8. プロポーザル・見積書の提出等

- (1) 提出期限：2021年12月13日(月)正午まで
- (2) 提出方法：新型コロナウイルスの感染防止のための在宅勤務継続が継続していることから、プロポーザル・見積書についてはデータによる提出とします(それぞれ別のメールで提出ください)。
- 宛先電子メールアドレス：[Funakoshi.Yohei@jica.go.jp](mailto:Funakoshi.Yohei@jica.go.jp)
- 1) メールタイトル：【プロポーザルの提出(社名●●)】  
徳島県美馬市及びつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)に準拠した観光開発の現状・課題調査(21c00896000000)
  - 2) メールタイトル：【プロポーザルのパスワードの提出(社名●●)】  
徳島県美馬市及びつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)に準拠した観光開発の現状・課題調査(21c00896000000)
  - 3) メールタイトル：【見積書の提出(社名●●)】  
徳島県美馬市及びつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)に準拠した観光開発の現状・課題調査(21c00896000000)
- (3) 提出書類：
- 1) プロポーザル(押印写付)(パスワード付きPDF)  
「第3 プロポーザルの作成方法」及び下記サイトに掲載の「プロポーザル参考様式」を参照して下さい(プロポーザル参考様式はあくまで参考ですので、「第3 プロポーザルの作成要領」の要求を満たしていれば、必ずしも厳格に様式を利用する必要はありません)。  
<https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/proposal.html>
  - 2) 見積書(押印写付)(パスワード付きPDF)  
見積書は任意様式とします。経費項目については、「第4 見積書作成及び支払について」を参照下さい。なお、見積書提出時点とパスワ

- ード提出時点は異なります。
- ・見積書はプロポーザルと同時に提出してください。
- ・パスワードは機構からの連絡を受けてから以下に提出してください。  
 なお、同連絡のタイミングは交渉順位決定時となります。  
 宛先電子メールアドレス：[Funakoshi.Yohei@jica.go.jp](mailto:Funakoshi.Yohei@jica.go.jp)  
 メールタイトル：【見積書のパスワードの提出(社名●●)】  
 徳島県美馬市及びつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイド  
 ライン（JSTS-D）に準拠した観光開発の現状・課題調査  
 (21c00896000000)
- ・見積書の表紙については上記ア. に記載のサイトに掲載の様式をご  
 使用ください。
- ・見積書については、応募者の名称又は商号並びに代表者の氏名によ  
 る見積書とし、代表者印又は社印を押印して下さい。
- ・日付はプロポーザル提出日として下さい。

(5) その他

- 1) 一旦提出されたプロポーザルは、差し替え、変更又は取り消しはできませ  
 ん。
- 2) プロポーザル及び見積書等の作成、提出に係る費用については報酬を支払  
 いません。
- 3) 契約交渉相手先には(3)提出書類の原本(押印付)を別途、提出頂きま  
 す。
- 4) 機構のシステムでは受信できるメールの容量には制限がありますので1回  
 あたりのメールの容量が4メガバイト以下になるよう、PDF データを分割  
 するなど調整をお願いいたします。また、圧縮ソフトを用いると機構のセ  
 キュリティシステムによりメールが排除されてしまいますのでご注意を  
 お願いいたします。

(6) プロポーザルの無効

次の各号のいずれかに該当するプロポーザルは無効とします。

- 1) 提出期限後に提出されたとき。
- 2) 記名、押印がないとき。
- 3) 同一応募者から内容が異なる提案が2通以上提出されたとき。
- 4) 虚偽の内容が記載されているとき(虚偽の記載をしたプロポーザルの提出  
 者に対して契約競争参加資格停止等の措置を行うことがあります)。
- 5) 前各号に掲げるほか、本プロポーザル方式選定説明書に違反しているとき。

9. プロポーザルの評価結果の通知

- (1) プロポーザルは、当機構において審査しプロポーザルを提出した全者に対し、  
 その結果をメールで通知します。2021年12月17日(金)までに結果が通知  
 されない場合は、以下までお問い合わせください。

宛先電子メールアドレス：[Funakoshi.Yohei@jica.go.jp](mailto:Funakoshi.Yohei@jica.go.jp)

メールタイトル：【プロポーザル評価結果の照会(社名●●)】

徳島県美馬市及びつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン

(JSTS-D) に準拠した観光開発の現状・課題調査 (21c00896000000)

- (2) プロポーザル評価の結果、契約交渉の相手先として選定されなかった者は、その理由について説明を求めることができます。詳細は、「14. その他(5)」を参照下さい。

## 10. プロポーザルの評価及び契約交渉順位の決定方法

### (1) 評価項目・評価配点・評価基準

「第3 プロポーザルの作成方法」別紙評価表参照。

### (2) 評価方法

「第3 プロポーザルの作成方法」別紙評価表の項目ごとに、各項目に記載された配点を上限として、以下の基準により評価（小数第一位まで採点）し、合計点を評価点とします。

当該項目の評価	評価点
当該項目については極めて優れており、高い付加価値がある業務の履行が期待できるレベルにある。	90%以上
当該項目については優れており、適切な業務の履行が十分期待できるレベルにある。	80%
当該項目については一般的なレベルに達しており、業務の履行が十分できるレベルにある。	70%
当該項目については必ずしも一般的なレベルに達していないが、業務の履行は可能と判断されるレベルにある。	60%
当該項目だけで判断した場合、業務の適切な履行が困難であると判断されるレベルにある。	50%以下

なお、プロポーザル評価点が100満点中50点（基準点という。）を下回る場合は不合格とします。

### (3) 契約交渉順位の決定方法

プロポーザルの評価点が最も高い者を交渉順位1位とします。なお、評価点と同じ者が2者以上あるときは、抽選により交渉順位を決定します。

## 11. 契約交渉

- (1) プロポーザル評価結果に基づき契約交渉順位1位の社から契約交渉を行います。
- (2) 契約交渉は上記4.の所在地にて実施します。
- (3) 契約交渉に当たっては、当方が提示している業務仕様書（案）及び提案頂いた内容に基づき、最終的な委託業務内容を協議します。
- (4) また、当機構として契約金額の妥当性を確認するため、見積書金額の詳細内訳や具体的な根拠資料を提出いただき、各業務に係る経費を精査します。

## 12. 最終見積書の提出、契約書作成及び締結

- (1) 上記11.により合意に至った者は、速やかに合意された金額の最終見積書を提出するものとします。

- (2) 「第5 契約書(案)」に基づき、速やかに契約書を作成し、締結するものとします。契約保証金は免除します。
- (3) 契約書附属書Ⅱ「契約金額内訳書」(「第5 契約書(案)」参照)については、見積金額の内訳等の文書に基づき、両者協議・確認して設定します。

### 13. 情報の公開について

「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」(平成22年12月7日閣議決定)に基づき、行政改革推進本部事務局から、独立行政法人が密接な関係にあると考えられる法人と契約する際には、当該法人への再就職の状況や取引高などの情報を公表することが求められています。

つきましては、当機構においてもこれに基づき関連情報を当機構のホームページで公表することとしますので、必要な情報の当方への提供及び情報の公表に同意の上で、応札若しくは応募又は契約の締結を行っていただくようご理解とご協力をお願いいたします。

#### (1) 公表の対象となる契約

当機構との間に締結する契約のうち、次に掲げるものを除きます。

ア. 当機構の行為を秘密にする必要があるとき

イ. 予定価格が次の基準額を超えない契約

- ① 工事又は製造の請負の場合、250万円
- ② 財産の買入れの場合、160万円
- ③ 物件の借入れの場合、80万円
- ④ 上記以外の場合、100万円

ウ. 光熱水料、燃料費及び通信費の支出に係る契約

#### (2) 公表の対象となる契約相手方

次のいずれにも該当する契約相手方

ア. 当該契約の締結日において、当機構の役員経験者が再就職していること又は当機構の課長相当職以上経験者が役員等(※)として再就職していること

※役員等とは、役員のほか、相談役、顧問その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、経営や業務運営について、助言することなどにより影響力を与え得ると認められる者を含みます。

イ. 当機構との間の取引高が、総売上又は事業収入の3分の1以上を占めていること(総売上高又は事業収入の額は、当該契約の締結日における直近の財務諸表に掲げられた額によることとし、取引高は当該財務諸表の対象事業年度における取引の実績によることとします)

#### (3) 公表する情報

契約ごとに、物品役務等の名称及び数量、契約締結日、契約相手方の氏名・住所、契約金額等と併せ、次に掲げる情報を公表します。

ア. 当機構の役員経験者又は当該契約相手方の役員等として再就職している当機構課長相当職以上経験者の氏名、契約相手方での現在の職名及び当機構に



おける最終職名

- イ. 契約相手方の直近3ヵ年の財務諸表における当機構との間の取引高
- ウ. 契約相手方の総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引割合が、次の区分のいずれかに該当する旨
  - ・ 3分の1以上2分の1未満
  - ・ 2分の1以上3分の2未満
  - ・ 3分の2以上
- エ. 一者応札又は応募である場合はその旨

(4) 公表の時期

契約締結日以降、所定の日数以内（72日以内。ただし、4月締結の契約については93日以内）に掲載することが義務付けられています。

(5) 情報提供の方法

契約締結時に所定の様式を提出していただきますので、ご協力をお願いします。

13-2. 独立行政法人会計基準に基づく情報提供依頼の可能性について

当機構を含む全ての独立行政法人は、公的な資金の流れを対外的に説明する観点から、独立行政法人会計基準に基づき、適切に情報開示を行うことが求められています。その一環として、年間の総収入に占める当機構との年間の取引高の割合が3分の1を超える公益法人等（公益法人等には、一般社団法人、一般財団法人、公益社団法人、公益財団法人のほか、社会福祉法人、特定非営利活動法人、技術研究組合等の法人も含む。）については、一定の場合を除き、「関連公益法人等」として分類し、当機構との取引等の関係を財務諸表の附属明細書に掲載することと定められています。

この要請に適切に応えるため、取引高等の情報提供依頼を行う可能性がありますので、ご協力をお願いします。

なお、「関連公益法人等」として当機構の財務諸表に掲載されることは、当該法人の当機構との取引の割合や当該法人の役員に占める当機構役職員出身者の割合が一定以上に高いことを示すものであり、当該法人と当機構との間に資本を通じた関係があることを意味しているものではありません。また、当該法人の財務諸表作成において特別な処理が必要となるものではありません。

14. その他

- (1) 機構が配布・貸与した資料・提供した情報（口頭によるものを含む）は、本件業務のプロポーザル及び入札書を作成するためのみに使用することとし、複写または他の目的のために転用等使用しないでください。
- (2) プロポーザル等は、本件業務の契約交渉順位を決定し、また、契約交渉を行う目的以外に使用しません。
- (3) 採用となったプロポーザル等については返却いたしません。また、不採用となったプロポーザル及び見積書の電子データ（PDFのパスワードがないので機構では開封できません）については、機構が責任をもって削除します。

- (4) プロポーザル等に含まれる個人情報等については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第59号）」に従い、適切に管理し取り扱います。
- (5) 競争参加資格がないと認められた者、プロポーザルの評価の結果契約交渉の相手先として選定されなかった者については、その理由についてそれぞれの通知日から2週間以内に説明を求めることができますので、ご要望があれば「4. (1) 書類等の提出先」までメールでご連絡願います。

(6) 辞退理由書

当機構では、競争参加資格有の確認通知を受けた後にプロポーザルを提出されなかった者に対し、メール添付のPDFで辞退理由書の提出をお願いしております。辞退理由書は、当機構が公的機関として競争性の向上や業務の質の改善につなげていくために、内部資料として活用させていただくものです。つきましては、ご多忙とは存じますが、ご協力の程お願い申し上げます。

なお、内容につきまして、個別に照会させて戴くこともありますので、予めご了承ください。また、本辞退理由書にお答えいただくことによる不利益等は一切ありません。本辞退理由書は今後の契約の改善に役立てることを目的としているもので、その目的以外には使用いたしませんので、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。辞退理由書の様式は、様式集のとおりです。

以上

## 第2 業務仕様書

この業務仕様書は、独立行政法人国際協力機構四国センター（以下「発注者」）が実施する「徳島県美馬市およびつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に準拠した観光開発の現状・課題調査」に関する業務の内容を示すものです。本件受注者は、この業務仕様書に基づき本件業務を実施します。

### 1. 業務の背景、目的

本事業は、観光庁が推進する「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」の四国地域への将来的な本格導入に向けて、徳島県美馬市とつるぎ町を対象に、JSTS-Dの視点から持続可能な観光地経営に向けた地域の現状、あり方、課題等に関する調査として実施するもの。また、両自治体は、発注者が実施する2022年度課題別研修「文化資源を活用した地方観光開発」における研修（視察）候補地であるところ、効果的な研修実施に向けた情報収集・分析を兼ねた調査とする。なお、本事業は、国土交通省四国運輸局と独立行政法人国際協力機構四国センターの共同事業として位置付ける。

美馬市とつるぎ町があるにし阿波地域は、地域住民のありのままの暮らしぶり・生活様式を観光資源とする取り組み、世界農業遺産に認定された「傾斜地農耕システム」と農泊体験を組み合わせた手法、うだつの町並み保全や藍染文化の継承等、持続可能性を意識した観光振興等、農業資源を中心とした観光と町おこしに特色がある地域である。

当該地域では、SDGsの推進には意欲的な一方、JSTS-Dについては、検討の初期段階にあり、四国運輸局ならびに当該地域を所管する観光地域づくり法人(DMO)そらの郷としても、JSTS-Dの導入に向けた関係者の理解度の深化、具体的な手法の導入の必要性が強く認識されている。

当該地域において、三好市については、2021年度より観光庁主導によるJSTS-Dの推進に係る調査およびパイロット事業が複数年度に渡り実施中なるも、美馬市、つるぎ町については外部支援の予定がなく、DMOのみではその推進が困難な状況にある。

2022年度より3か年にかけて実施予定であるJICA研修事業においては、観光開発の経緯や実績のみならず、世界標準に適した観光地の在り方についての日本の取り組みと現状も重要な研修内容として位置付けることから、当該調査を通じた当該地域の強み、課題、そして将来へのアクションを明示化することは研修事業の質の向上に直結した取組となる。

以上の背景を踏まえ、にし阿波地域のうち、美馬市とつるぎ町を対象としたJSTS-Dに照らし合わせた観光開発の現状、課題そして具体的なアクションプランの策定を支援することで両地域のJSTS-Dの推進への貢献、ならびにJICA研修の充実化を図るもの。

### 2. 業務の概要

- (1) 美馬市およびつるぎ町におけるJSTS-Dの取り組みに関する現状、同ガイドラインに準拠した観光開発を実施するに当たっての課題などを、既存資料をもとに整理・分析を実施する。また、実施対象地域の自治体・観光関連機関等を訪問し、調査目的、調査委内容の説明、およびヒアリングを行う。
- (2) JSTS-Dの将来的な実施体制を構築する一環として、調査対象自治体の関係者間（ステークホルダー）を対象としたワークショップを実施し、アクションプランを関係者とともに作成する。
- (3) 各自治体におけるJSTS-Dに準拠した観光開発を実施するための課題やアクションプランを総合的に整理・分析したうえで、今後実施すべく対応策を提案する。なお、過去に観光庁によって実施されたJSTS-Dに係るモデル事業対象地域や今年度実施されている類似案件の対象地域に対しヒアリング調査等を行い、支援事業終了後の対象地域におけるガイドラインに準拠した観光開発の進捗状況、課

題、支援事業の進捗状況などを明らかにし、本調査自治体における JSTS-D に準拠した観光開発の取り組むうえでの課題の対応策の提案の参考にする。

- (4) また、得られた調査結果をもとに、2022 年度から独立行政法人国際協力機構四国センターにおいて実施予定の課題別研修「文化資源を活用した地方観光開発」への活用として、1-2 日の行程での当該地域への訪問もしくはオンライン視察を行う場合に含むべき、講義内容・狙い、ディスカッションのテーマ・手法、視察対象のステークホルダー、視察地および同内容で期待される成果等について提案する。また、研修において、本訪問・視察が最適化されるよう、研修に組み込むべき講義、他視察先等とその理由を提案する。なお、当該研修についての詳細は、契約締結後に委細提示を行うが、概略については別添の参考資料を参照のこと。

### 3. 業務の内容

以下に発注者が想定する業務の流れを記載するが、受注者は、より効果的、効率的な作業工程・方法を考察し、プロポーザルにより提案すること。

#### (1) 調査計画書の作成・提出

調査全体の方針・方法、調査対象機関、調査内容等に加え、課題の対応策の検討に当たっての主なポイントなどを含む調査計画を検討し、レポートにまとめたうえで発注者に内容を説明し協議・確認を得ること。なお、調査対象とする地域の選定にあたっては、一般社団法人そらの郷の意向を踏まえる必要があるため、プロポーザルを提案するにあたり、同法人への事前ヒアリングを可とする。

#### (2) 関連情報の収集・分析

以下の関連情報の収集・分析に関しては、調査対象となる既存資料、調査対象機関等、調査内容・方法等をプロポーザルにおいて提案することとし、契約交渉時に発注者の確認を得ることとする。なお、必要に応じて、契約締結後あらためて発注者の確認を得ることがある。

- ① 地域の属性や全体像を明確化するため、美馬市・つるぎ町各自治体の基本情報（面積、人口等）や地理的情報、主要観光施設、主な交通アクセス、観光統計などを記入する観光地としてのプロフィール（デスティネーションプロフィール）を作成する。
- ② デスティネーションプロフィールをもとに、各自治体の観光における得意・不得意分野、課題などを調査・分析、取りまとめたうえで、持続可能な観光地として目指すべき目標を作成する。
- ③ 上記結果を分析し、観光地経営において採用すべき JSTS-D の観光指標を検討し、目指すべき目安を設定する。
- ④ 課題別研修における同地視察の際に取り入れるべき講義内容、視察関係者、視察先について検討する。

対象地域における JSTS-D に準拠した観光開発の将来的な取り組みに当たっての課題に関しては、各種既存調査結果等を踏まえてあらかじめ課題の類型化を行い、現地訪問によるヒアリング対象地域・機関等を検討し、ヒアリング結果にもとづいて分析結果をまとめる。課題の特定・分析は、自治体レベルで行うとともに、地域の DMO の他、観光事業者等の視点からも行う。

#### (3) 関係者間（ステークホルダー）におけるワークショップの実施

- ① 上記調査を実施するとともに、JSTS-D を推進する団体（国連世界観光機関 (UNWTO)

駐日事務所、四国ツーリズム創造機構等を含む)、地域観光協会、地域住民、ホテル・旅館、ツアーガイド、商工会議所等、観光に直接関わる関係者を含め、各自治体においてワークショップ(半日程度/回)を3回ずつ実施する。

- ② ワークショップにおいては、JSTS-Dの導入を検討するため、同ガイドラインの紹介、各自治体における現状・課題の共有、将来的な実施をするための提案、アクションプランの作成発表の場を含める。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインでの実施方法も提案可とする。

#### (4) 今後実施すべき対応策の提案

- ① 各自治体における JSTS-D に準拠した観光開発を実施するための課題やアクションプランを総合的に整理・分析したうえで、今後実施すべく対応策を提案する。
- ② 過去に実施された同事業の対象地域や今年度実施されている類似案件の対象地域に対し、ヒアリング調査等を行い、支援事業終了後の対象地域におけるガイドラインに準拠した観光開発の進捗状況、課題、支援事業の進捗状況などを明らかにし、本調査自治体における JSTS-D に準拠した観光開発の取り組むうえでの課題の対応策の提案の参考にする。

#### (5) 対象地域での課題に関する対応策を検討、提案

- ① 調査対象地域の調査において明らかとなった JSTS-D に準拠した観光開発を将来的に推進するうえでの課題について、調査対象自治体、機関、取り組み内容、期間等について、ワークプランの活用もしつつ、対応策を提案すること。提案に当たっては、関連する機関における実施・推進体制等を踏まえ、地域の実情に見合った提案とすること。
- ② 課題への対応策の提案に当たっては、関連する法令上の改正等が前提になるようなものは原則として対象としない。
- ③ 上記①～②に関する自治体への提案内容に関しては、自治体開示前に発注者の確認を得ること。
- ④ 上記の調査・分析結果を踏まえ、課題別研修における同地視察の際に取り入れるべく講義内容、視察関係者、視察先について最終的な提案をすること。また、得られた調査結果をもとに、2022年度から独立行政法人国際協力機構四国センターにおいて実施予定の課題別研修「文化資源を活用した地方観光開発」への活用として、1-2日の行程での当該地域への訪問もしくはオンライン視察を行う場合を含むべき、講義内容・狙い、ディスカッションのテーマ・手法、視察対象ステークホルダーおよび視察地等及び同内容に係る提案する。また、研修において、本訪問・視察が最適化されるよう、研修に組み込むべき講義、他視察先等とその理由を提案する。なお、当該研修についての詳細は、契約締結後に委細提示を行うが、概略については別添の参考資料を参照のこと。

#### 4. 業務実施上の留意事項

- (1) 2021年12月下旬を目途とした契約締結後、調査業務期間は約2ヵ月を予定しており、成果物作成期間も踏まえ、同業務の履行期限は2022年3月末日とする。
- (2) 本調達は国土交通省四国運輸局との同事業であり、調査の実施管理にあたっては同局関係者が一部関与する。
- (3) 調査の進捗・成果について、発注者の指示した日時に、発注者および国土交通省四国運輸局にプレゼンテーションを実施する。回数は中間時と終了時の2回を予定。

## 5. 成果物・業務提出物等

- (1) 業務計画書 : 電子版
- (2) 業務完了報告書案 : 電子版
- (3) 業務完了報告書 : 原本1部および電子版

### 第3 プロポーザル作成要領

プロポーザルを作成するにあたっては、「第2 業務仕様書」ならびに本項別紙「評価表」に明記されている内容等をプロポーザルに十分に反映させることが必要となりますので、その内容をよく確認して下さい。

#### 1. プロポーザルの構成と様式

プロポーザルの構成は以下のとおりです。

プロポーザルに係る様式については、以下のサイトを参考として下さい。ただし、あくまで参考様式としますので、応募者独自の様式を用いても結構です。

<https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/proposal.html>

- (1) 応募者の経験・能力等
  - ア. 類似業務の経験
    - ①類似業務の経験（一覧リスト）……………（参考：様式1（その1））
    - ②類似業務の経験（個別）……………（参考：様式1（その2））
  - イ. 資格・認証等……………（任意様式）
- (2) 業務の実施方針等……………（任意様式）
  - ア. 業務実施の基本方針（留意点）・方法
  - イ. 業務実施体制（要員計画・バックアップ体制）
  - ウ. 業務実施スケジュール
- (3) 業務従事者（総括者及びその他2名）の経験・能力等
  - ア. 業務総括者の推薦理由……………（任意様式）
  - イ. 業務総括者の経験・能力等……………（参考：様式2（その1, 2））
  - ウ. 業務総括者の特記すべき類似業務の経験……………（参考：様式2（その3））
  - オ. その他2名の特記すべき類似業務の経験……………（参考：様式2（その3））

#### 2. プロポーザル作成に係る要件・留意事項

本業務に係るプロポーザル作成に際して、留意頂くべき要件・事項について、以下のとおり整理します。

- (1) 応募者の経験・能力等
  - 自社が業務を受注した際に適切かつ円滑な業務が実施できることを証明するために参考となる、応募者の類似業務の経験、所有している資格等について、記載願います。
    - ア. 類似業務の経験
      - 類似業務とは、業務の分野、サービスの種類、業務規模などにおいて、蓄積された経験等が当該業務の実施に際して活用できる業務を指します。
      - 類似業務の実績を「様式1（その1）」に記載ください。原則として、過去10年程度の実績を対象とし、最大でも5件以内として下さい。
      - また、業務実績の中から、当該業務に最も類似していると考えられる実績（3件以内）を選び、その業務内容（事業内容、サービスの種類、業務規模等）や類似点を「様式1（その2）」に記載して下さい。特に、何が当該業務の実施に有用なのかが分かるように簡潔に記述して下さい。
    - イ. 資格・認証等
      - 以下の資格・認証を有している場合は、その証明書の写しを提出願います。
        - 女性活躍推進法に基づく認定（えるぼし認定）
        - 次世代育成支援対策推進法に基づく認定（くるみん認定またはプラチナくるみん認定）

- 青少年の雇用の促進等に関する法律に基づく認定（ユースエール認定）
- マネジメントに関する資格（ISO9001等）
- 個人情報保護に関する資格（プライバシーマーク等）
- 情報セキュリティに関する資格・認証（ISO27001/ISMS等）
- その他、本業務に関すると思われる資格・認証

## （2）業務の実施方針等

業務仕様書に対する、応募者が提案する業務の基本方針、業務を実施するために用いている方法や手法などについて記述して下さい。記述は、全体で10ページ以内を目途として下さい。

### ア. 業務実施の基本方針（留意点）・方法

業務仕様書について内容を把握のうえ、そのような方針・方法で業務に臨むのか、当該業務の目的等を理解したうえでどのような事柄に留意し業務を実施するのかを十分に検討し、業務ごとに提案願います。

各種提案に当たっては、本説明書に示した業務内容を基本とし、提案者の特徴を活かした提案内容として下さい。

### イ. 業務実施体制、要員計画

業務仕様書に記載の業務全体をどのような実施（管理）体制（直接業務に携わる業務従事者のみならず、組織としてまたは組織の外部におけるバックアップ体制を含む。）、要員計画（業務に必要な業務従事者数、その構成、資格要件等）等で実施するのか、提案願います。実施（管理）体制の方針、考え方についても、併せて記載願います。

なお、要員計画については、全体計画の記載を求めるものであり、個々の業務従事者の個別の人員配置計画を求めるものではありません。

### ウ. 業務実施スケジュール

業務実施にあたっての作業工程をフローチャート・作業工程計画書等で作成願います。

## （3）業務総括者の経験・能力等

業務を総括する方の経験・能力等（類似業務の経験、実務経験及び学位、資格等）について記述願います。

### ア. 業務総括者の推薦理由

応募者が、業務総括者を推薦する理由を、400字以内で記載下さい。

### イ. 業務総括者の経験・能力等

以下の要領に従い、記載下さい。

- 「取得資格」は、担当業務に関連する取得資格について、その資格名、分野やレベル、取得年月日を記載するとともに、可能な限りその認定証の写しを添付して下さい。
- 「学歴」は、最終学歴のみを記載ください。
- 「外国語」は、英語の資格名を記載してください。また、保有する資格の種類、スコア、取得年を記載下さい。
- 「現職」は、現在の所属先の名称、所属先に採用された年月、部・課及び職位名を記載し、職務内容を1～2行で簡潔に記載して下さい。また、所属先の確認を行うため、雇用保険については、確認（受理）通知年月日、被保険者番号、事業所番号、事業所名略称を記載して下さい。
- 「職歴」は、所属先を最近のものから時系列順に記載し、所属した主要会社・部・課名及び主な職務内容につき、簡潔に記載ください。
- 「業務従事等経験」は、現職の直前の所属先から新しい順に、所属先の名称、所



属した期間、部・課及び職位名を記載し、職務内容を1～2行で、簡潔に記載して下さい。

- 「担当業務」については、各々の業務に従事した際の担当業務を正確に示すようにして下さい。
- 「研修実績等」については、担当業務に関連する研修歴を記載し、可能な限りその認定書等の写しを添付願います。
- 職歴、業務等従事経験が、「様式2（その1）」だけでは記載しきれない場合には、「様式2（その2）」に記入して下さい。

#### ウ. 特記すべき類似業務の経験

記載にあたっては、当該業務に類似すると考えられる業務経験の中から、業務総括者の業務内容として最も適切と考えられるものを3件まで選択し、類似する内容が具体的に分かるように、「様式2（その3）」に業務の背景と全体業務概要、担当事項及び当該業務との関連性について記載ください。

### 3. その他

プロポーザルの体裁は、原則、正を紙製フラットファイル綴じ、写をひも綴じとします。ただし、分量（ページ数）が多い場合は、これによらず、バインダー等を使用して下さい。

別紙：評価表（評価項目一覧表）

評価表（評価項目一覧表）

評価項目	評価基準（視点）			配点
<b>1. 応募者の経験・能力等</b>				<b>30</b>
(1) 類似業務の経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 類似業務については実施件数のみならず、業務の分野（内容）と形態、発注業務との関連性に鑑み総合的に評価する。特に評価する類似案件としては、労働・雇用事情に関する各種調査業務とする。外国人材に関する案件に対し高い評価を与える。</li> <li>● 概ね過去10年までの類似案件を対象とし、より最近のものに対し高い評価を与える。</li> </ul>			25
(2) 資格・認証等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 以下の資格・認証を有している場合に加点する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マネジメントに関する資格（ISO9001等）</li> <li>・ 情報セキュリティに関する資格・認証（ISO27001/ISMS、プライバシーマーク等）</li> <li>・ 女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定」を受けている場合は評価する。</li> <li>・ 次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん認定・プラチナくるみん認定」を受けている場合は評価する。</li> <li>・ 若者雇用促進法に基づく「ユースエール認定」を受けている場合は評価する。</li> <li>・ その他、本業務に関すると思われる資格・認証</li> </ul> </li> </ul>			5
<b>2. 業務の実施方針等</b>				<b>40</b>
(1) 業務実施の基本方針（留意点）・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業務の目的及び内容等に基づき業務実施のクリティカルポイントを押さえ、これに対応する業務方針が示されているか。</li> <li>● 提案されている業務の方法については、具体的かつ現実的なものか。</li> <li>● その他本業務の実施に関連して評価すべき提案事項があるか</li> </ul>			20
(2) 業務実施体制、要員計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 提示された業務の基本方針及び方法に見合った実施（管理）体制や要員計画が具体的かつ現実的に提案されているか、業務実施上重要な専門性が確保されているか。具体性のないあいまいな提案については、評価を低くする。</li> <li>● 要員計画について、外部の人材に過度に依存している場合、主要な業務について外注が想定されている場合には、評価を低くする。</li> </ul>			15
(3) 業務実施スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的かつ現実的なスケジュール案が提示されているか。</li> </ul>			5
<b>3. 業務従事者の経験・能力</b>				<b>30</b>
(1) 業務総括者	①類似業務の経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 類似業務については実施件数のみならず、業務の分野（内容）と形態、発注業務との関連性に鑑み総合的に評価する。</li> <li>● 概ね過去10年までの類似案件を対象とし、より最近のものに対し高い評</li> </ul>	20	20

		価値を与える。		
	②業務総括者としての経験	最近10年の総括経験にプライオリティをおき評価する。	8	
	① その他学位、資格等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発注業務と関連性の強い学歴（専門性）、資格、業務経験などがあるか。</li> <li>●その他、業務に関連して評価すべき項目があるか。</li> </ul>	2	
				100

## 第4 見積書作成及び支払について

### 1. 見積書の作成について

経費の見積もりに当たっては、「第2 業務仕様書」に規定されている業務の内容を十分理解したうえで、必要な経費を積算してください。見積書作成の上での留意点は以下のとおりです。

- (1) 可能な範囲で詳細な内訳をつけて見積書を作成してください。当該業務の実施において想定される経費の費目構成は、以下のとおりです。見積書の様式は任意としますが、これらの費目を網羅するようにしてください。なお、必要に応じ、項目の統合、削除、追加することも可能です。この場合、プロポーザルにもその旨記載ください。

＜想定される経費の費目構成＞

ア. 直接人件費(以下を上限とする)

(ア) 総括1名

(イ) 現地 JSTS-D 実態・課題調査2名

イ. 旅費

(ア) 交通費

(イ) 日当宿泊

ウ. 一般業務費(セミナー会場備上費、雑費等)

エ. 一般管理費

- (2) 消費税(10%)を計上してください。
- (3) 契約交渉順位一位となった応募者については、上記(1)で作成いただいた見積書及び内訳書に基づき契約交渉を行い、各業務に係る経費の契約金額および精算対象とする経費を決定します。契約交渉の際には、経費の妥当性を確認するため、より詳細な内訳や見積書の各金額の根拠資料も提出いただきます。
- (4) 契約交渉が成立した場合、上記契約交渉を踏まえた最終見積書を提出いただきます。最終見積書の形式については契約交渉時に決定します。

### 2. 支払について

- (1) 支払いは、業務完了後の一括後払いを原則とします。
- (2) 業務の完了や成果物等の検査に合格し、精算金額の確定を受けた後、発注者は受注者からの請求に基づき支払います。詳細は添付の契約書(案)を参照ください。

### 3. その他留意事項

(1) 精算手続きに必要な「証拠書類」とは、「その取引の正当性を立証するに足りる書類」を示し、領収書又はそれに代わるものです。証拠書類には、①日付、②宛名(支払者)、③領収書発行者(支払先)、④受領印又は受領者サイン、⑤支出内容が明記されていなければなりません。

(2) 受注者の責によらない止むを得ない理由で、業務量を増加する場合には、機構と協議の上、両者が妥当と判断する場合に、契約変更を行うことができます。受注者は、このような事態が起きた時点で速やかに当センターと相談して下さい。

以上

## 第5 契約書（案）

### 業務委託契約書（案）

1. 業務名称 徳島県美馬市及びつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に準拠した観光開発の現状・課題調査
2. 契約金額 金00,000,000円  
(内 消費税及び地方消費税の合計額 0,000,000円)
3. 履行期間 2021年12月●●日から2022年3月31日(木)まで

頭書業務の実施について、独立行政法人国際協力機構四国センター 契約担当役 所長 小林 秀弥（以下「発注者」という。）と●●●● ●●●●● ●●●●（以下「受注者」という。）とはおのおの対等な立場における合意に基づいて、次の条項によって契約（以下「本契約」という。）を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

#### （総 則）

- 第1条 受注者は、本契約に定めるところに従い、附属書Ⅰ「業務仕様書」（以下「業務仕様書」という。）に定義する業務を、善良な管理者の注意義務をもって誠実に履行し、発注者は受注者に対しその対価を支払うものとする。
- 2 受注者は、本契約書及び業務仕様書に特別の定めがある場合を除き、業務を実施するために必要な方法、手段、手順については、受注者の責任において定めるものとする。
- 3 頭書の「契約金額」に記載の「消費税及び地方消費税」（以下「消費税等」という。）とは、消費税法（昭和63年法律第108号）及び地方税法（昭和25年法律第226号）の規定に基づくものである。
- 4 税法の改正により消費税等の税率が変更された場合は、変更後の税率の適用日以降における消費税等の額は変更後の税率により計算された額とする。ただし、法令に定める経過措置に該当する場合又は消費税率変更前に課税資産の譲渡等が行われる場合は、消費税等の額は変更前の税率により計算された額とする。
- 5 本契約の履行及び業務の実施（安全対策を含む。）に関し、受注者から発注者に提出する書類は、発注者の指定するものを除き、第5条に定義する監督職員を経由して提出するものとする。
- 6 前項の書類は、第5条に規定する監督職員に提出された日に発注者に提出されたものとみなす。
- 7 発注者は、本業務の委託に関し、受注者から契約保証金を徴求しない。
- 8 受注者が共同企業体である場合は、その構成員は、発注者に対して、連帯して本契約を履行し、業務を実施する義務を負うものとする。また、本契約に基づく賠償金、違約金及び延滞金が発生する場合は、全構成員による連帯債務とする。

(業務計画書)

第2条 受注者は、本契約締結日から起算して10営業日(営業日とは国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日及び12月29日から1月3日までを除く月曜日から金曜日までの日をいう。以下、同じ。)以内に、業務仕様書に基づいて業務計画書を作成し、発注者に提出しなければならない。ただし、業務仕様書に特別の定めがあるとき又はあらかじめ発注者の承諾を得たときは、この限りでない。

(権利義務の譲渡等)

第3条 受注者は、本契約の地位又は本契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は継承させてはならない。ただし、あらかじめ書面による発注者の承諾を得たときは、この限りでない。

(再委託又は下請負の禁止)

第4条 受注者は、業務の実施を第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。ただし、業務仕様書に特別の定めがあるとき又はあらかじめ書面による発注者の承諾を得たときは、この限りでない。

2 受注者が、前項ただし書の規定により業務の一部の実施を第三者に委託し、又は請け負わせる場合は、次の各号の条件が課されるものとする。

(1) 受注者は発注者に対し、本契約により生ずる一切の義務を免れるものではなく、また、受託者又は下請負人の役職員を受注者の役職員とみなし、当該役職員が本契約により生ずる受注者の義務に違反した場合は、受注者が責任を負うものとする。

(2) 発注者は、受注者に対して、受託者又は下請負人の名称その他必要な事項の通知を求めることができる。

(3) 第18条第1項第8号イからトまでのいずれかに該当する者を受託者又は下請負人としてはならない。

(監督職員)

第5条 発注者は、本契約の適正な履行を確保するため、独立行政法人国際協力機構四国センター業務課長の職にある者を監督職員と定める。

2 監督職員は、本契約の履行及び業務の実施に関して、次に掲げる業務を行う権限を有する。

(1) 第1条第5項に定める書類の受理

(2) 本契約に基づく、受注者又は次条に定める受注者の業務責任者に対する指示、承諾及び協議

(3) 本契約に基づく、業務工程の監理及び立会

3 前項における、指示、承諾、協議及び立会とは、次の定義による。

(1) 指示 監督職員が受注者又は受注者の業務責任者に対し、監督職員の所掌権限に係る方針、基準、計画等を示し、実施させることをいう。

(2) 承諾 受注者又は受注者の業務責任者が監督職員に報告し、監督職員が所掌権限に基づき了解することをいう。

(3) 協議 監督職員と受注者又は受注者の業務責任者が対等の立場で合議し、結

論を得ることをいう。

(4) 立会 監督職員又はその委任を受けたものが作業現場に出向き、業務仕様書に基づき業務が行われているかを確認することをいう。

- 4 第2項第2号の規定に基づく監督職員の指示、承諾及び協議は、原則としてこれを書面に記録することとする。
- 5 発注者は、監督職員に対し本契約に基づく発注者の権限の一部であって、第2項で定める権限以外のものを委任したときは、当該委任した権限の内容を書面により受注者に通知しなければならない。
- 6 発注者は、監督職員を通じて、受注者に対し、いつでも本契約の業務の履行状況の報告を求めることができる。

(業務責任者)

第6条 受注者は、本契約の履行に先立ち、業務責任者を定め、発注者に届出をしなければならない。発注者の同意を得て、業務責任者を交代させたときも同様とする。

- 2 受注者は、前項の規定により定めた業務責任者に、業務の実施についての総括管理を行わせるとともに、発注者との連絡に当たらせなければならない。
- 3 業務責任者は、本契約に基づく受注者の行為に関し、受注者を代表する権限(ただし、契約金額の変更、作業項目の追加等業務内容の重大な変更、履行期間の変更、損害額の決定、本契約に係る支払請求及び金銭受領の権限並びに本契約の解除に係るものを除く。)を有するものとする。

(業務内容の変更)

第7条 発注者は、必要があると認めるときは、受注者に対して書面による通知により業務内容の変更を求めることができる。

- 2 発注者は、必要があると認めるときは、受注者に対して書面による通知により業務の全部又は一部を一時中止させることができる。
- 3 第1項により業務内容を変更する場合において、履行期間若しくは契約金額を変更する必要があると認められるとき、又は受注者が直接かつ現実に損害を受けたときは、発注者及び受注者は、変更後の履行期間及び契約金額並びに賠償額について協議し、当該協議の結果を書面により定める。
- 4 第2項の場合において、受注者に増加費用が生じたとき、又は受注者が直接かつ現実に損害を受けたときは、発注者はその費用を負担し、又はその損害を賠償しなければならない。この場合において、発注者及び受注者は、負担額及び賠償額を協議し、当該協議の結果を書面により定める。

(一般的損害)

第8条 業務の実施において生じた損害(本契約で別に定める場合を除く。)については、受注者が負担する。ただし、発注者の責に帰すべき理由により生じた損害については、発注者が負担する。

(第三者に及ぼした損害)

第9条 業務の実施に関し、第三者に及ぼした損害について、当該第三者に対して賠償を行わなければならない場合は、受注者がその賠償額を負担する。



- 2 前項の規定にかかわらず、同項に規定する損害の発生が発注者の責に帰すべき事由による場合は、発注者がその賠償額を負担する。ただし、受注者が、発注者の責に帰すべき事由があることを知りながらこれを発注者に通知しなかったときは、この限りでない。
- 3 前二項の場合において、その他業務の実施に関し、第三者との間に紛争が生じたときは、発注者、受注者協力してその処理解決に当たるものとする。

(検査)

- 第 10 条 受注者は、業務を完了したときは、遅滞なく、発注者に対して業務完了届を提出しなければならない。この場合において、発注者が認める場合は、受注者は、第 14 条に規定する経費確定(精算)報告書に代えて、附属書Ⅱ「契約金額内訳書」(以下「契約金額内訳書」という。)に規定する単価等に基づき確定した経費の内訳及び合計を業務完了届に記載することができる。
- 2 業務の完了前に、業務仕様書において可分な業務として規定される一部業務が完了した場合は、受注者は、当該部分業務に係る業務完了届を提出することができる。発注者が受注者に対し、当該部分業務に係る業務完了届の提出を求めたときは、受注者は、遅滞なく業務完了届を提出しなければならない。
  - 3 発注者は、前 2 項の業務完了届を受理したときは、その翌日から起算して 10 営業日以内に当該業務について確認検査を行い、その結果を受注者に通知しなければならない。

(債務不履行)

- 第 11 条 受注者の責に帰すべき理由により、受注者による本契約の履行が本契約の本旨に従った履行と認められない場合、又は、履行が不能になった場合は、発注者は受注者に対して、完全な履行を請求し、又は履行に代え若しくは履行とともに損害の賠償を請求することができる。この場合において、本契約の目的が達せられない場合は、発注者は、本契約の全部又は一部を解除することができる。

(成果物等の取扱い)

- 第 12 条 受注者は、業務仕様書に成果物(以下「成果物」という。)が規定されている場合は、成果物を、業務仕様書に成果物が規定されていない場合は、業務実施報告書(以下「業務実施報告書」という。)を、第 10 条第 1 項及び第 2 項に規定する業務完了届に添付して提出することとし、第 10 条第 3 項に規定する検査を受けるものとする。
- 2 前項の場合において、第 10 条第 3 項に定める検査の結果、成果物及び業務実施報告書について補正を命ぜられたときは、受注者は遅滞なく当該補正を行い、発注者に補正完了の届を提出して再検査を受けなければならない。この場合において、再検査の期日については、第 10 条第 3 項の規定を準用する。
  - 3 受注者は、業務仕様書に業務提出物(以下、「業務提出物」という。)が規定されている場合は、業務提出物を業務仕様書の規定(内容、形態、部数、期限等)に基づき提出し、監督職員の確認を得なければならない。
  - 4 受注者が提出した成果物、業務実施報告書及び業務提出物(以下総称して「成果物等」という。)の所有権は、それぞれ第 10 条第 3 項に定める検査合格又は前項に定める監督職員の確認の時に、受注者から発注者に移転する。

- 5 受注者が提出した成果物等の著作権（著作権法第 27 条、第 28 条所定の権利を含む。）は、業務仕様書にて別途定めるもの及び受注者又は第三者が従来から著作権を有する著作物を除き、それぞれ第 10 条第 3 項に定める検査合格又は前項に定める監督職員の確認の時に受注者から発注者に譲渡されたものとし、著作権が受注者から発注者に譲渡された部分の利用又は改変については、受注者は発注者に対して著作権人行使しないものとする。また、成果物等のうち、受注者が従来から著作権を有する著作物については、受注者は、これら著作物を発注者が利用するために必要な許諾を発注者に与えるものとし、第三者が従来から著作権を有する著作物については、受注者は、責任をもって第三者から発注者への利用許諾を得るものとする。
- 6 前項の規定は、第 11 条、第 18 条第 1 項、第 19 条第 1 項又は第 20 条第 1 項の規定により本契約を解除した場合についても、これを準用する。

（成果物等の瑕疵担保）

- 第 13 条 発注者は、前条第 4 項による所有権の移転後において、当該成果物等に瑕疵が発見された場合は、受注者に対して相当の期間を定めてその瑕疵の修補を請求し、又は修補に代え、若しくは修補とともに損害の賠償を請求することができる。
- 2 前項において受注者が負うべき責任は、前条第 1 項及び 2 項の検査の合格をもって免れるものではない。
  - 3 第 1 項の規定による瑕疵の修補又は損害賠償の請求は、前条第 4 項の所有権の移転後、1 年以内に行わなければならない。

（経費の確定）

- 第 14 条 受注者は、履行期間末日の翌日から起算して 30 日以内に、発注者に対し、経費確定（精算）報告書（以下「経費報告書」という。）を提出しなければならない。ただし、発注者の事業年度末においては、発注者が別途受注者に通知する日時までに提出するものとする。
- 2 受注者は、第 10 条第 2 項に定める可分な業務にかかる業務完了届を提出する場合は、当該業務完了届の提出日の翌日から起算して 30 日以内に、発注者に対し、当該業務に係る経費報告書を提出しなければならない。ただし、発注者の事業年度末においては、発注者が別途受注者に通知する日時までに提出するものとする。
  - 3 受注者は、契約金額内訳書のうち精算を必要とする費目についての精算を行うに当たっては、経費報告書の提出と同時に必要な証拠書類一式を発注者に提出しなければならない。
  - 4 発注者は、第 1 項及び第 2 項の経費報告書及び前項の必要な証拠書類一式を検査のうえ、契約金額の範囲内で発注者が支払うべき額（以下「確定金額」という。）として確定し、経費報告書を受領した日の翌日から起算して 30 日以内に、これを受注者に通知しなければならない。
  - 5 前項の金額の確定は、次の各号の定めるところにより行うものとする。
    - （1）業務の対価（報酬）  
契約金額内訳書に定められた単価及び実績による。
    - （2）直接経費

契約金額の範囲内において、領収書等の証拠書類に基づく実費精算による。ただし、日当・宿泊料、国内旅費、外国旅費、報告書作成費、一般業務費については、契約金額内訳書に定められた単価及び実績による。

(支払)

第 15 条 受注者は、第 10 条第 3 項による検査に合格し、前条第 4 項の規定による確定金額の決定通知を受けたときは、発注者に確定金額の支払を請求することができる。

2 発注者は、前項の規定による請求を受けたときは、請求を受けた日の翌日から起算して 30 日以内に支払を行わなければならない。

3 前項の規定にかかわらず、発注者は、受注者の支払請求を受理した後、その内容の全部又は一部に誤りがあると認めるときは、その理由を明示して当該請求書を受注者に返付することができる。この場合は、当該請求書を返付した日から是正された支払請求を発注者が受理した日までの期間の日数は、前項に定める期間の日数に算入しないものとする。

(履行遅滞の場合における損害の賠償)

第 16 条 受注者の責に帰すべき理由により、履行期間内に業務を完成することができない場合において、履行期間経過後相当の期間内に完成する見込みのあるときは、発注者は受注者に履行遅滞により発生した損害の賠償を請求するとともに、成果品の引き渡しを請求することができる。

2 前項の損害賠償の額は、契約金額から既に引渡しを受けた部分に相当する金額を控除した額につき、遅延日数に応じ、年 2.7 パーセントの割合で計算した額とする。

3 発注者の責に帰すべき理由により、発注者が支払義務を負う契約金額の支払が遅れた場合は、受注者は、未受領金額につき、遅延日数に応じ、年 2.7 パーセントの割合で計算した額の遅延利息の支払いを発注者に請求することができる。

(天災その他の不可抗力の扱い)

第 17 条 自然災害又は暴動、ストライキ等の人為的な事象であって、発注者、受注者双方の責に帰すべからざるもの(以下「不可抗力」という。)により、発注者、受注者いずれかによる履行が遅延又は妨げられる場合は、当事者は、その事実発生後遅滞なくその状況を書面により本契約の相手方に通知しなければならない、また、発注者及び受注者は、通知後速やかに書面にて不可抗力の発生の事実を確認し、その後の必要な措置について協議し定める。

2 不可抗力により生じた履行の遅延又は不履行は、本契約上の義務の不履行又は契約違反とはみなさない。

(発注者の解除権)

第 18 条 発注者は、受注者が次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、催告を要せずして、本契約を解除することができる。

(1) 受注者の責に帰すべき事由により、本契約の目的を達成する見込みがないと明らかに認められるとき。

(2) 受注者が本契約に違反し、その違反により本契約の目的を達成することがで

きないと認められるとき。

- (3) 受注者が第20条第1項に規定する事由によらないで本契約の解除を申し出、本契約の履行を果たさないとき。
- (4) 第23条第1項各号のいずれかに該当する行為があったとき。
- (5) 受注者に不正な行為があったとき、又は発注者の名誉ないし信用を傷つける行為をしたとき。
- (6) 受注者に仮差押又は仮処分、差押、競売、破産、民事再生、会社更生又は特別清算等の手続開始の申立て、支払停止、取引停止又は租税滞納処分等の事実があったとき。
- (7) 受注者が「独立行政法人国際協力機構関係者の倫理等ガイドライン」に違反したとき。
- (8) 受注者が、次に掲げる各号のいずれかに該当するとき、又は次に掲げる各号のいずれかに該当する旨の新聞報道、テレビ報道その他報道（ただし、日刊新聞紙等、報道内容の正確性について一定の社会的評価が認められている報道に限る。）があったとき。

イ 役員等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力集団等（各用語の定義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程（総）第25号）に規定するところにより、これらに準ずる者又はその構成員を含む。以下「反社会勢力」という。）であると認められるとき。

ロ 役員等が暴力団員でなくなった日から5年を経過しない者であると認められるとき。

ハ 反社会的勢力が経営に実質的に関与していると認められるとき。

ニ 法人である受注者又はその役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしているとき。

ホ 法人である受注者又はその役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき。

ヘ 法人である受注者又はその役員が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしているとき。

ト 法人である受注者又はその役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有しているとき。

チ 受注者が、再委託、下請負又は物品購入等にかかる契約に当たり、その相手方がイからトまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。

リ 受注者が、イからトまでのいずれかに該当する者を再委託、下請負又は物品購入等にかかる契約の相手方としていた場合（前号に該当する場合を除く。）に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求め、受注者がこれに従わなかったとき。

ヌ その他受注者が、東京都暴力団排除条例又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行ったとき。

- 2 前項の規定により本契約が解除された場合（前項第4号の場合を除く。）は、受注者は発注者に対し契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合に

は、変更後の契約金額とする。)の10分の1に相当する金額を違約金として、発注者の指定する期間内に発注者に納付しなければならない。この場合において、発注者の被った実損害額が当該違約金の額を超えるときは、発注者は、受注者に対して、別途、当該超過部分の賠償を請求することができる。

(発注者のその他の解除権)

第19条 発注者は、前条第1項に規定する場合のほか、その理由を問わず、少なくとも30日前に書面により受注者に予告通知のうえ、本契約を解除することができる。

2 第1項の規定により本契約を解除した場合において、受注者が受注者の責に帰することができない理由により損害を受けたときは、発注者はその損害を賠償するものとする。賠償額は、受注者が既に支出し、他に転用できない費用に契約業務を完成したとすれば取得しえたであろう利益を合算した金額とする。

(受注者の解除権)

第20条 受注者は、発注者が本契約に違反し、その違反により業務を完了することが不可能となったときは、本契約を解除することができる。

2 前項の規定により本契約を解除した場合は、前条第2項の規定を準用する。

(解除に伴う措置)

第21条 発注者は、本契約が解除された場合においては、業務の出来高部分のうち、検査に合格したものについては、引渡しを受けるものとし、当該引渡しを受けたときは、当該引渡しを受けた出来高部分に相応する発注済金額を支払わなければならない。

(調査・措置)

第22条 受注者が、第18条第1項各号又は第23条第1項各号に該当すると疑われる場合は、発注者は、受注者に対して調査を指示し、その結果を文書で発注者に報告させることができ、受注者は正当な理由なくこれを拒否してはならないものとする。

2 発注者は、前項の報告を受けたときは、その内容を詳細に確認し、事実の有無を判断するものとする。この場合において、発注者が審査のために必要であると認めるときは、受注者からの説明を求め、必要に応じ受注者の事業所に赴き検査を行うことができるものとする。

3 発注者は、第18条第1項各号又は第23条第1項各号に該当する不正等の事実を確認した場合は、必要な措置を講じることができるものとする。

4 発注者は、前項の措置を講じた場合は、受注者名及び不正の内容等を公表することができるものとする。

(重大な不正行為に係る違約金)

第23条 受注者が次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、発注者の解除権行使の有無にかかわらず、受注者は契約金額(本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額とする)の10分の2に相当する金額を違約金として発注者の指定する期間内に納付しなければならない。

- (1) 次のいずれかの目的により、受注者の役職員又はその指図を受けた者が刑法（明治40年法律第45号）第198条（贈賄）又は不正競争防止法（平成5年法律第47号）第18条（外国公務員等に対する不正の利益の供与等の禁止）に違反する行為を行い刑が確定したとき。また、受注者が同条に相当する外国の法令に違反する行為を行い、同国の司法機関による確定判決又は行政機関による最終処分がなされたときも同様とする。
- イ 本契約の業務の実施にかかる便宜を得る目的
- ロ 本契約の業務の実施の結果を受けて形成された事業の実施を内容とする契約の受注又は事業の許認可の取得等にかかる便宜を得る目的（本契約の履行期間中に違反行為が行われ、又は本契約の経費若しくは対価として支払を受けた金銭を原資として違反行為が行われた場合に限る。）
- (2) 受注者又は受注者の意を受けた関係者が、本契約の業務に関し、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号）（以下、「独占禁止法」）第3条、第6条又は第8条に違反する行為を行い、公正取引委員会から独占禁止法第7条又は同法第8条の2（同法第8条第1号若しくは第2号に該当する行為の場合に限る。）の規定による排除措置命令を受け、又は第7条の2第1項（同法第8条の3において読み替えて準用する場合を含む。）の規定による課徴金の納付命令を受け、当該納付命令が確定したとき。
- (3) 公正取引委員会が、受注者又は受注者の意を受けた関係者に対し、本契約の業務の実施に関して独占禁止法第7条の2第18項の規定による課徴金の納付を命じない旨の通知を行ったとき。
- (4) 受注者又はその意を受けた関係者（受注者又は当該関係者が法人の場合は、その役員又は使用人）が、本契約の業務の実施に関し、刑法第96条の6（公契約関係競売等妨害）、独占禁止法第89条第1項又は同法第90条1号及び2号に違反する行為を行い刑が確定したとき。
- (5) 第1号、第2号及び前号に掲げるいずれかの違反行為があったことを受注者（受注者が共同企業体である場合は、当該共同企業体の構成員のいずれか）が認めるとき。ただし、発注者は、受注者が、当該違反行為について自主的な申告を行い、かつ発注者に協力して損害の発生又は拡大を阻止し、再発防止のため適切な措置を講じたときは、違約金を免除又は減額することができる。なお、受注者が共同企業体である場合は、その構成員の一が自主的な申告を行い、かつ発注者に協力して損害の発生又は拡大を阻止し、再発防止のため適切な措置を講じたときは、発注者は、当該構成員に対し、違約金を免除又は減額することができる。
- (6) 第14条に定める経費確定（精算）報告において受注者が故意又は重過失により虚偽の資料等を提出し、発注者に対して過大な請求を行ったことが認められたとき。
- 2 受注者が前項各号に複数該当するときは、発注者は、諸般の事情を考慮して、同項の規定により算定される違約金の総額を減額することができる。ただし、減額後の金額は契約金額の10分の2を下ることはない。
- 3 前二項の場合において、発注者の被った実損害額が当該違約金の額を超えるとときは、発注者は、受注者に対して、別途、当該超過部分の賠償を請求することができるものとする。
- 4 前三項に規定する違約金及び賠償金は、第18条第2項に規定する違約金及び

賠償金とは独立して適用されるものとする。

- 5 受注者が共同企業体である場合であって、当該共同企業体の構成員のいずれかが次の各号のいずれかに該当するときは、第1条第8項の規定にかかわらず、発注者は、当該構成員に対して第1項から第3項までに規定する違約金及び賠償金を請求しないことができる。ただし、第2号に掲げる者のうち当該違反行為を知りながら発注者への通報を怠ったものについては、この限りでない。
  - (1) 第1項第1号又は第4号に該当する場合であって、その判決内容等において、違反行為への関与が認められない者
  - (2) 第1項第5号に該当する場合であって、違反行為があったと認めた構成員が、当該違反行為に関与していないと認めた者
- 6 前項の適用を受けた構成員（以下「免責構成員」という。）がいる場合は、当該共同企業体の免責構成員以外の構成員が当該違約金及び賠償金の全額を連帯して支払う義務を負うものとする。
- 7 前各項の規定は、本契約の業務が完了した後も引き続き効力を有するものとする。

（賠償金等の徴収）

- 第24条 受注者が本契約に基づく賠償金又は違約金を発注者の指定する期間内に支払わないときは、発注者は、その支払わない額に発注者の指定する期間を経過した日から契約金額支払いの日まで年2.7パーセントの割合で計算した利息を付した額と、発注者の支払うべき契約金額とを相殺し、なお不足があるときは追加徴収する。
- 2 前項の追加徴収をする場合は、発注者は、受注者から遅延日数につき年2.7パーセントの割合で計算した額の延滞金を徴収する。

（秘密の保持）

- 第25条 受注者（第4条に基づき受注者が選任する再委託先又は下請負人を含む。本条において以下同じ。）は、業務の実施上知り得た情報（以下「秘密情報」という。）を秘密として保持し、これを第三者に開示してはならない。ただし、次の各号に定める情報については、この限りでない。
- (1) 開示を受けた時に既に公知であったもの
  - (2) 開示を受けた時に既に受注者が所有していたもの
  - (3) 開示を受けた後に受注者の責に帰さない事由により公知となったもの
  - (4) 開示を受けた後に第三者から秘密保持義務を負うことなく適法に取得したものの
  - (5) 開示の前後を問わず、受注者が独自に開発したことを証明するもの
  - (6) 法令並びに政府機関及び裁判所等の公の機関の命令により開示が義務付けられたもの
  - (7) 第三者への開示につき、発注者又は秘密情報の権限ある保持者から開示について事前の承認があったもの
- 2 受注者は、秘密情報について、業務の履行に必要な範囲を超えて使用、提供又は複製してはならない。また、いかなる場合も改ざんしてはならない。
  - 3 受注者は、本契約の業務に従事する者（下請負人がある場合には下請負人を含む。以下「業務従事者等」という。）が、その在職中、退職後を問わず、秘密情報

を保持することを確保するため、秘密取扱規定の作成、秘密保持誓約書の徴収その他必要な措置を講じなければならない。

- 4 受注者は、秘密情報の漏えい、滅失又はき損その他の秘密情報の管理に係る違反行為等が発生したときは、直ちに被害の拡大防止及び復旧等のために必要な措置を講ずるとともに、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従わなければならない。
- 5 発注者は、必要があると認めるときは、受注者の同意を得た上で、受注者の事務所等において秘密情報が適切に管理されているかを調査し、管理状況が不適切である場合は、改善を指示することができる。
- 6 受注者は、本契約業務の完了後、速やかに秘密情報の使用を中止し、秘密情報を含む書類、図面、写真、フィルム、テープ、ディスク等の媒体（受注者が作成した複製物を含む。）を発注者に返却し、又は、当該媒体に含まれる秘密情報を復元できないよう消去若しくは当該媒体を破壊した上で、破棄し、その旨を発注者に通知しなければならない。ただし、発注者から指示があるときはそれに従うものとする。
- 7 前各項の規定は、本契約の業務が完了した後も引き続き効力を有する。

#### （個人情報保護）

第 26 条 受注者は、本契約において、発注者の保有個人情報（「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」（平成 15 年法律第 59 号。以下「独立行政法人個人情報保護法」という。）第 2 条第 5 項で定義される保有個人情報を指し、以下「保有個人情報」という。）を取り扱う場合は、次の各号に定める義務を負うものとする。

- （1）業務従事者等に次の各号に掲げる行為を遵守させること。ただし、予め発注者の承認を得た場合は、この限りでない。
  - イ 保有個人情報について、改ざん又は業務の履行に必要な範囲を超えて利用、提供、複製してはならない。
  - ロ 保有個人情報を第三者へ提供し、その内容を知らせてはならない。
- （2）業務従事者等が前号に違反したときは、受注者に適用のある独立行政法人個人情報保護法が定める罰則が適用され得ることを、業務従事者等に周知すること。
- （3）保有個人情報の管理責任者を定めること。
- （4）保有個人情報の漏えい、滅失、き損の防止その他個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じること。受注者は、発注者が定める個人情報保護に関する実施細則（平成17年細則（総）第11号）を準用し、当該細則に定められた事項につき適切な措置を講じるものとする。特に個人情報を扱う端末の外部への持ち出しは、発注者が認めるときを除き、これを行ってはならない。
- （5）発注者の求めがあった場合は、保有個人情報の管理状況を書面にて報告すること。
- （6）保有個人情報の漏えい、滅失又はき損その他の本条に係る違反行為等が発生したときは、直ちに被害の拡大防止及び復旧等のために必要な措置を講ずるとともに、速やかに発注者に報告し、その指示に従うこと。
- （7）受注者は、本契約の業務実施の完了後、速やかに保有個人情報の使用を中止し、保有個人情報を含む書類、図面、写真、フィルム、テープ、ディスク等の



媒体（受注者が作成した複製物を含む。）を発注者に返却し、又は、当該媒体に含まれる保有個人情報を復元できないよう消去若しくは当該媒体を破壊した上で破棄し、当該廃棄した旨を記載した書面を発注者に提出しなければならない。ただし、発注者から指示があるときはそれに従うものとする。

- 2 発注者は、必要があると認めるときは、受注者の事務所等において、保有個人情報が適切に管理されているかを調査し、管理状況が不適切である場合は、改善を指示することができる。
- 3 第1項第1号及び第6号並びに前項の規定は、本契約の業務が完了した後も引き続き効力を有する。

（情報セキュリティ）

第27条 受注者は、発注者が定める情報セキュリティ管理規程（平成29年規程（情）第14号）及び情報セキュリティ管理細則（平成29年細則（情）第11号）を準用し、当該規定及び細則に定められた事項につき適切な措置を講じるものとする。

（安全対策）

第28条 受注者は、業務従事者等の生命・身体等の安全優先を旨として、自らの責任と負担において、必要な安全対策を講じて、業務従事者等の安全確保に努めるものとする。

（業務災害補償等）

第29条 受注者は、自己の責任と判断において業務を遂行し、受注者の業務従事者等の業務上の負傷、疾病、障害又は死亡にかかる損失については、受注者の責任と負担において十分に付保するものとし、発注者はこれら一切の責任を免れるものとする。

（海外での安全対策）

第30条 業務仕様書において海外での業務が規定されている場合、受注者は、第28条及び前条の規定を踏まえ、少なくとも以下の安全対策を講じるものとする。

- (1) 業務従事者等について、以下の基準を満たす海外旅行保険を付保する。ただし、業務従事者等の派遣事務（航空券及び日当・宿泊料の支給）を発注者が実施する場合であって、発注者が海外旅行保険を付保するときは、この限りではない。

- ・ 死亡・後遺障害 3,000万円（以上）
- ・ 治療・救援費用 5,000万円（以上）

- (2) 業務を実施する国・地域への到着後、速やかに滞在中の緊急連絡網を作成し、前号の付保内容と併せ、発注者の在外事務所等に提出する。なお、業務従事者等が3ヵ月以上現地に滞在する場合は、併せて在留届を当該国・地域の在外公館に提出させる。
- (3) 業務を実施する国・地域への渡航前に、外務省が邦人向けに提供している海外旅行登録システム「たびレジ」に、業務従事者等の渡航情報を登録する。
- (4) 現地への渡航に先立ち、発注者が発注者のウェブサイト（国際協力キャリア総合情報サイト PARTNER）上で提供する安全対策研修（Web版）を業務従事者等に受講させる。ただし、提供されている研修素材の言語を理解できない者に

については、この限りではない。

(5) 現地への渡航に先立ち発注者が提供する JICA 安全対策措置（渡航措置及び行動規範）を業務従事者に周知し、同措置の遵守を徹底する。また、発注者より、同措置の改訂の連絡があった場合は、速やかに業務従事者に周知し、改訂後の同措置の遵守を徹底する。

2 第 28 条及び前条の規定にかかわらず、海外での業務について、受注者の要請があった場合又は緊急かつ特別の必要性があると認められる場合、発注者は、受注者と共同で又は受注者に代わって、受注者の業務従事者等に対し安全対策措置のための指示を行うことができるものとする。

（業務引継に関する留意事項）

第 31 条 本契約の履行期間の満了、全部若しくは一部の解除、又はその他理由の如何を問わず、本契約の業務が完了した場合には、受注者は発注者の求めによることに従い、本契約の業務を発注者が継続して遂行できるように必要な措置を講じるか、又は第三者に移行する作業を支援しなければならない。

（契約の公表）

第 32 条 受注者は、本契約の名称、契約金額並びに受注者の名称及び住所等が一般に公表されることに同意するものとする。

2 受注者が法人であって、かつ次の各号のいずれにも該当する場合は、前項に定める情報に加え、次項に定める情報が一般に公表されることに同意するものとする。

(1) 発注者において役員を経験した者が受注者に再就職していること、又は発注者において課長相当職以上の職を経験した者が受注者の役員等として再就職していること

(2) 発注者との取引高が、総売上高又は事業収入の 3 分の 1 以上を占めていること

3 受注者が前項の条件に該当する場合に公表される情報は、以下のとおりとする。

(1) 前項第 1 号に規定する再就職者に係る情報（氏名、現在の役職、発注者における最終職名）

(2) 受注者の直近 3 ヶ年の財務諸表における発注者との間の取引高

(3) 受注者の総売上高又は事業収入に占める発注者との間の取引高の割合

4 受注者が「独立行政法人会計基準」第 13 章第 6 節に規定する関連公益法人等に該当する場合は、受注者は、同基準第 13 章第 7 節の規定される情報が、発注者の財務諸表の付属明細書に掲載され一般に公表されることに同意するものとする。

（準拠法）

第 33 条 本契約は、日本国の法律に準拠し、同法に従って解釈されるものとする。

（契約外の事項）

第 34 条 本契約に定めのない事項又は本契約の条項について疑義が生じた場合は、必要に応じて発注者及び受注者が協議して、これを定める。

(合意管轄)

第 35 条 本契約に関し、裁判上の紛争が生じた場合は、当該紛争の内容や形式如何を問わず、東京地方裁判所又は東京簡易裁判所を第一審の専属的管轄裁判所とする。

本契約の証として、本書 2 通を作成し、発注者、受注者記名押印のうえ、各自 1 通を保持する。

2021 年 12 月●●日

発注者  
香川県高松市鍛冶屋町 3 番地  
香川三友ビル 1 階  
独立行政法人国際協力機構  
四国センター

受注者

契約担当役  
所 長 小林 秀弥

## 業 務 仕 様 書

この業務仕様書は、独立行政法人国際協力機構四国センター（以下「発注者」）が実施する「徳島県美馬市およびつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に準拠した観光開発の現状・課題調査」に関する業務の内容を示すものです。本件受注者は、この業務仕様書に基づき本件業務を実施します。

### 1. 業務の背景、目的

本事業は、観光庁が推進する「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」の四国地域への将来的な本格導入に向けて、徳島県美馬市とつるぎ町を対象に、JSTS-Dの視点から持続可能な観光地経営に向けた地域の現状、あり方、課題等に関する調査として実施するもの。また、両自治体は、発注者が実施する2022年度課題別研修「文化資源を活用した地方観光開発」における研修（視察）候補地であるところ、効果的な研修実施に向けた情報収集・分析を兼ねた調査とする。なお、本事業は、国土交通省四国運輸局と独立行政法人国際協力機構四国センターの共同事業として位置付ける。

美馬市とつるぎ町があるにし阿波地域は、地域住民のありのままの暮らしぶり・生活様式を観光資源とする取り組み、世界農業遺産に認定された「傾斜地農耕システム」と農泊体験を組み合わせた手法、うだつの町並み保全や藍染文化の継承等、持続可能性を意識した観光振興等、農業資源を中心とした観光と町おこしに特色がある地域である。

当該地域では、SDGsの推進には意欲的な一方、JSTS-Dについては、検討の初期段階にあり、四国運輸局ならびに当該地域を所管する観光地域づくり法人（DMO）その郷としても、JSTS-Dの導入に向けた関係者の理解度の深化、具体的な手法の導入の必要性が強く認識されている。

当該地域において、三好市については、2021年度より観光庁主導によるJSTS-Dの推進に係る調査およびパイロット事業が複数年度に渡り実施中なるも、美馬市、つるぎ町については外部支援の予定がなく、DMOのみではその推進が困難な状況にある。

2022年度より3か年にかけて実施予定であるJICA研修事業においては、観光開発の経緯や実績のみならず、世界標準に適した観光地の在り方についての日本の取り組みと現状も重要な研修内容として位置付けることから、当該調査を通じた当該地域の強み、課題、そして将来へのアクションを明示化することは研修事業の質の向上に直結した取組となる。

以上の背景を踏まえ、にし阿波地域のうち、美馬市とつるぎ町を対象としたJSTS-Dに照らし合わせた観光開発の現状、課題そして具体的なアクションプランの策定を支援することで両地域のJSTS-Dの推進への貢献、ならびにJICA研修の充実化を図るもの。

### 2. 業務の概要

- (1) 美馬市およびつるぎ町におけるJSTS-Dの取り組みに関する現状、同ガイドラインに準拠した観光開発を実施するに当たっての課題などを、既存資料をもとに整理・分析を実施する。また、実施対象地域の自治体・観光関連機関等を訪問し、調査目的、調査委内容の説明、およびヒアリングを行

- う。
- (2) JSTS-D の将来的な実施体制を構築する一環として、調査対象自治体の関係者間（ステークホルダー）を対象としたワークショップを実施し、アクションプランを関係者とともに作成する。
  - (3) 各自治体における JSTS-D に準拠した観光開発を実施するための課題やアクションプランを総合的に整理・分析したうえで、今後実施すべく対応策を提案する。なお、過去に観光庁によって実施された JSTS-D に係るモデル事業対象地域や今年度実施されている類似案件の対象地域に対しヒアリング調査等を行い、支援事業終了後の対象地域におけるガイドラインに準拠した観光開発の進捗状況、課題、支援事業の進捗状況などを明らかにし、本調査自治体における JSTS-D に準拠した観光開発の取り組むうえでの課題の対応策の提案の参考にする。
  - (4) また、得られた調査結果をもとに、2022 年度から独立行政法人国際協力機構四国センターにおいて実施予定の課題別研修「文化資源を活用した地方観光開発」への活用として、1-2 日の行程での当該地域への訪問もしくはオンライン視察を行う場合に含むべき、講義内容・狙い、ディスカッションのテーマ・手法、視察対象のステークホルダー、視察地および同内容で期待される成果等について提案する。また、研修において、本訪問・視察が最適化されるよう、研修に組み込むべき講義、他視察先等とその理由を提案する。なお、当該研修についての詳細は、契約締結後に委細提示を行うが、概略については別添の参考資料を参照のこと。

### 3. 業務の内容

以下に発注者が想定する業務の流れを記載するが、受注者は、より効果的、効率的な作業工程・方法を考察し、プロポーザルにより提案すること。

#### (1) 調査計画書の作成・提出

調査全体の方針・方法、調査対象機関、調査内容等に加え、課題の対応策の検討に当たっての主なポイントなどを含む調査計画を検討し、レポートにまとめたうえで発注者に内容を説明し協議・確認を得ること。なお、調査対象とする地域の選定にあたっては、一般社団法人そらの郷の意向を踏まえる必要があるため、プロポーザルを提案するにあたり、同法人への事前ヒアリングを可とする。

#### (2) 関連情報の収集・分析

以下の関連情報の収集・分析に関しては、調査対象となる既存資料、調査対象機関等、調査内容・方法等をプロポーザルにおいて提案することとし、契約交渉時に発注者の確認を得ることとする。なお、必要に応じて、契約締結後あらためて発注者の確認を得ることがある。

- ① 地域の属性や全体像を明確化するため、美馬市・つるぎ町各自治体の基本情報（面積、人口等）や地理的情報、主要観光施設、主な交通アクセス、観光統計などを記入する観光地としてのプロフィール（デスティネーションプロフィール）を作成する。
- ② デスティネーションプロフィールをもとに、各自治体の観光における得意・不得意分野、課題などを調査・分析、取りまとめたうえで、持続可能な観光地として目指すべき目標を作成する。

- ③ 上記結果を分析し、観光地経営において採用すべき JSTS-D の観光指標を検討し、目指すべき目安を設定する。
- ④ 課題別研修における同地視察の際に取り入れるべき講義内容、視察関係者、視察先について検討する。

対象地域における JSTS-D に準拠した観光開発の将来的な取り組みに当たっての課題に関しては、各種既存調査結果等を踏まえてあらかじめ課題の類型化を行い、現地訪問によるヒアリング対象地域・機関等を検討し、ヒアリング結果にもとづいて分析結果をまとめる。課題の特定・分析は、自治体レベルで行うとともに、地域の DMO の他、観光事業者等の視点からも行う。

#### (2) 関係者間（ステークホルダー）におけるワークショップの実施

- ① 上記調査を実施するとともに、JSTS-Dを推進する団体（国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所、四国ツーリズム創造機構等を含む）、地域観光協会、地域住民、ホテル・旅館、ツアーガイド、商工会議所等、観光に直接関わる関係者を含め、各自治体においてワークショップ（半日程度/回）を3回ずつ実施する。
- ② ワークショップにおいては、JSTS-Dの導入を検討するため、同ガイドラインの紹介、各自治体における現状・課題の共有、将来的な実施をするための提案、アクションプランの作成発表の場を含める。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインでの実施方法も提案可とする。

#### (3) 今後実施すべき対応策の提案

- ① 各自治体における JSTS-D に準拠した観光開発を実施するための課題やアクションプランを総合的に整理・分析したうえで、今後実施すべく対応策を提案する。
- ② 過去に実施された同事業の対象地域や今年度実施されている類似案件の対象地域に対し、ヒアリング調査等を行い、支援事業終了後の対象地域におけるガイドラインに準拠した観光開発の進捗状況、課題、支援事業の進捗状況などを明らかにし、本調査自治体における JSTS-D に準拠した観光開発の取り組むうえでの課題の対応策の提案の参考にする。

#### (4) 対象地域での課題に関する対応策を検討、提案

- ① 調査対象地域の調査において明らかとなった JSTS-D に準拠した観光開発を将来的に推進するうえでの課題について、調査対象自治体、機関、取り組み内容、期間等について、ワークプランの活用もしつつ、対応策を提案すること。提案に当たっては、関連する機関における実施・推進体制等を踏まえ、地域の実情に見合った提案とすること。
- ② 課題への対応策の提案に当たっては、関連する法令上の改正等が前提になるようなものは原則として対象としない。
- ③ 上記①～②に関する自治体への提案内容に関しては、自治体開示前に発注者の確認を得ること。

- ④ 上記の調査・分析結果を踏まえ、課題別研修における同地視察の際に取り入れるべく講義内容、視察関係者、視察先について最終的な提案をすること。また、得られた調査結果をもとに、2022年度から独立行政法人国際協力機構四国センターにおいて実施予定の課題別研修「文化資源を活用した地方観光開発」への活用として、1-2日の行程での当該地域への訪問もしくはオンライン視察を行う場合に含むべき、講義内容・狙い、ディスカッションのテーマ・手法、視察対象ステークホルダーおよび視察地等及び同内容に係る提案する。また、研修において、本訪問・視察が最適化されるよう、研修に組み込むべき講義、他視察先等とその理由を提案する。なお、当該研修についての詳細は、契約締結後に委細提示を行うが、概略については別添の参考資料を参照のこと。

#### 4. 業務実施上の留意事項

- (1) 2021年12月下旬を目途とした契約締結後、調査業務期間は約2ヵ月を予定しており、成果物作成期間も踏まえ、同業務の履行期限は2022年3月末日とする。
- (2) 本調達は国土交通省四国運輸局との共同事業であり、調査の実施管理にあたっては同局関係者が一部関与する。
- (3) 調査の進捗・成果について、発注者の指示した日時に、発注者および国土交通省四国運輸局にプレゼンテーションを実施する。回数は中間時と終了時の2回を予定。

#### 5. 成果物・業務提出物等

- (1) 業務計画書 : 電子版
- (2) 業務完了報告書案 : 電子版
- (3) 業務完了報告書 : 原本1部および電子版

[附属書Ⅱ]

## 契約金額内訳書



# 様式集

## ■競争参加資格確認に関する様式

1. 競争参加資格確認申請書
2. 委任状
3. 共同企業体結成届（共同企業体の結成を希望する場合）
4. 質問書
5. 辞退理由書

## ■プロポーザル作成に関する様式

1. プロポーザルおよび見積書提出頭紙
2. プロポーザル表紙
3. プロポーザル参考様式（別の様式でも提出可）

以上の参考様式のデータは、以下のサイトよりダウンロードできます。

国際協力機構ホームページ（<https://www.jica.go.jp>）

→「調達情報」

→「調達ガイドライン、様式」

→「様式 プロポーザル方式（国内向け物品・役務等）」

（<https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/proposal.html>）

なお、各様式のおもてには、以下の事項を記載してください。

- ・宛先：独立行政法人国際協力機構 四国センター 契約担当役 所長
- ・業務名称：「徳島県美馬市およびつるぎ町における日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に準拠した観光開発の現状・課題調査」
- ・公示日：2021年11月15日